

# 有毒植物 (8)

北大薬学部教授 三橋 博

## オニシバリ (デンチョウゲ科)

山地にはえる有毒な落葉灌木で、雌雄異株高さ1mに達し、茎は直立して分枝し、強くて容易に切れないので鬼縛り、鬼もしばることができるとの名前がつけられ、又葉は倒皮針形、全緑で通常枝先きに集まって付き秋にのびて冬を越すが夏には落葉する。そのためにナツボウズともよばれる。果実は楕円体の液果で7月頃熟して赤くなり辛い味がする。又刺激感が強い。有毒成分はダフニンとよばれる配糖体と樹脂様の物質がある。北海道には本植物によく似たナニワズ(エゾオニシバリ)がある。これらの植物の果実は子供がよく誤って食べ中毒死することがあるので注意する必要がある。

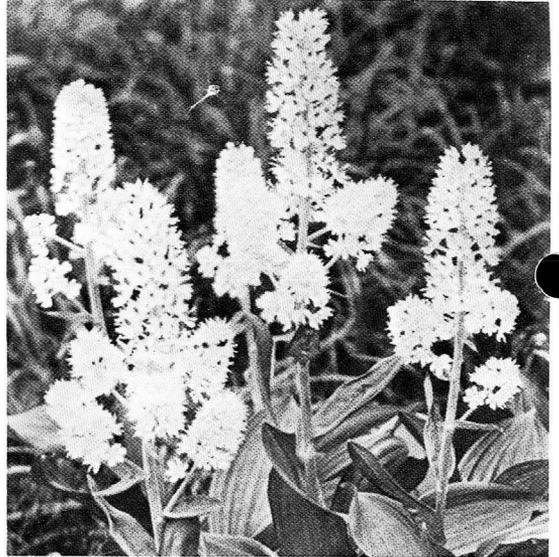


オニシバリ

## バイケイソウ (ユリ科)

本州中部以北の高地、北海道においては平地に野生する多年生草本である。夏に茎頂に白い花をつけ、多年群生する有様は見事である。茎は草高1.5mに達し、葉は楕円形で著しく縦ひだがある。バイケイソウは梅薔草、薔は蘭の一種、つまり花は梅に似て、葉が蘭の様なところから由来している。この根茎は有毒で殺虫に利用されたこともあった。粉末は粘膜を強く刺激し、鼻に入れば、くさめを發する。最近の研究でこれより有用な多数のアルカロイド類が分離された。

本植物による中毒は、よだれをたらし、体温が低下する。さらに進むと心臓、呼吸中枢がおかされ死亡に至る。



バイケイソウ

## ドクゼリ (セリ科)

大形の多年生草本で水辺、沼沢に自生する。茎は中空で高さ1mに達する。地下茎は緑色でたけのこ形で短い節がある。葉は2回羽状複葉で小葉は皮針形、枝先に複散形花序の多数の白色の小花を開く。果実は扁円形で長さ2mm、有毒成分を含み(チクトキシシン)中毒事故がおこる。セリ科は一般に食用に供し得るが、本植物とドクニンジンが有毒である。ドクニンジンにはエキスを薬用にも用いるが古くはこれを死刑に用いたこともある。哲学者ソクラテスもこの毒により獄死した。食用に供されるセリとドクゼリは充分注意して見分ける必要がある。



ドクゼリ